

全国知事会 第33回新型コロナウイルス緊急対策本部会議  
蒲島熊本県知事コメント

まず始めに、アサリの産地偽装の件では、熊本県産と称するアサリの流通により、全国の皆様に、ご迷惑をおかけしております。

今回の産地偽装は、本県の農林水産物全体の信頼を大きく揺るがすだけでなく、食料の安全保障を脅かす重大な問題です。

産地偽装を根絶するという強い決意で、国とも連携して、しっかりと取り組んで参ります。皆様の御協力をよろしく申し上げます。

次に、新型コロナの状況についてです。

新規感染者数は、未だに1000名近くが確認される日もあるなど高止まりしております。県全体の病床使用率も60%を超えています。

現在は、まん延防止等重点措置による対策の効果により、少なくとも飲食店を起因とする感染拡大は抑えられていると思います。

一方で、今課題となっているのは、高齢者施設での感染拡大です。

特に、入所系の高齢者施設の3分の1を占める有料老人ホームの中には、感染症発生時の医療機関との連携が十分とは言えない施設もあり、第6波では多くの感染者が発生しています。

そのため本県では、感染管理認定看護師による人的支援や、クラスター対応の経験を踏まえた研修などを実施してきました。

さらに、感染者の発生に備え、協力医療機関等との連携体制を再確認するよう高齢者施設へ通知するなど、県として実施できるあらゆる対策を講じています。

国には、有料老人ホームにおける医療機関と連携した対策等の好事例を全国に拡げるとともに、さらなる効果的な対策を早急に検討していただきたいと思います。

さらに将来的には、介護福祉士の養成課程における感染症に関するカリキュラムを、より実践的な内容にすることなども、検討する必要があると考えています。

また、第6波の収束に向け、ワクチンの追加接種の加速化にも全力で取り組んでいます。

市町村でも、接種券の前倒し発行などが進んでいますが、課題の一つとして交互相種に対する県民の不安があります。

私も昨日、県の大規模接種会場において、モデルナで交互相種を行うなど、不安解消に取り組んでいます。

どれだけ接種体制が整っても、この課題を解決しない限り、追加接種は進みません。

国においては、交互相種の安全性と効果を、さらに強力に発信していただきたいと思っております。

以上